

唐津のメディア産業①

～先陣を切った新聞メディア（1/2）～

地域コミュニケーションに欠かせないものにメディア関連産業がある。唐津市でその先陣を切ったのは新聞メディアで、1896年（明治29年）の旬刊紙『唐津新報』が、継続的に刊行される新聞としては最初のものとなった。とある文献には「新聞発行部数は700～800枚であったが、日露戦争頃から、一般のように週6日の日刊に進み、唐津を独占して堅実な歩みを続けた」とある。

しかし、1910年（明治43年）6月には、当時、唐津で大論争となっていた「電力問題」（火力と水力どちらの発電所を導入するかで町を二分）を契機に、火力派と目されていた『唐津新報』に対抗する勢力として、水力派・西海商業銀行の後押しで『唐津日日新聞』が創刊。同紙は同年10月に『西海新聞』と改題し、以降、しばらく日刊二紙の対抗関係が続いた。

その後、1914年（大正3年）には『唐津新報』と『西海新聞』が統合。題号を『西海新聞』の旧称である『唐津日日新聞』とした。昭和に入り、「一県一紙」統制で『佐賀合同新聞』唐津支局となるまで、同紙は唐津の代表紙としてその役目を果たすことになる。

大正から昭和戦前期にかけては、さまざまな新聞が栄枯盛衰を繰り返した。1921年（大正10年）には『唐津日日新聞』の関係者の一部が独立して『唐津時事新聞』を創刊。しかし経営は必ずしも順調ではなく、10年を経て身売りする形で経営陣が交替。その後急速に勢いを失っていった。また1922年（大正11年）に佐賀市で創刊した『肥前日日新聞』は、佐賀県で初めて輪転機を導入。当初から唐津の新聞市場を意識していたようだが、数年を経て急速に紙勢を失っていく。このほか『唐津民衆新聞』『唐津新報』『松浦新聞』などさまざまな日刊紙や月刊、旬刊紙が誕生するも、いずれも財政事情などで姿を消していった。

戦後になり、それまでの統制で禁圧されていた地域紙などが雨後の筍のように各地に誕生した。そうした中で唐津に誕生し、その後の唐津の代表氏として長く君臨するのが『唐津新聞』である。

『唐津新聞』は、社屋を唐津市魚屋町に置き、1946年2月に創刊した。1947年12月には組織を合名会社・唐津新聞社とし、宮崎芳郎氏が業務執行社員として経営者となり、翌1948年3月に社長に就任した。その翌年（1949年）には合名会社を解散し、宮崎氏による個人経営の会社となり、社屋も本町に移転した。

～2/2へつづく～

◎地図・写真・統計資料など



千代田町2568の17番地にあった
唐津新聞社
（『松浦大鑑』より）

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

唐津のメディア産業①

～先陣を切った新聞メディア（2/2）～

～1/2からつづく～

1950年には、『唐津新聞』はいろいろな意味で転機を迎えた。まず同年7月には、紙面サイズをタブロイド判から、一回り大きいA4切ほどに拡大。文字数も増やし、盛り込まれる情報量を4割増とした。

1951年には宮崎が市議会議長に選出され、経営から遠ざかるのを埋め合わせるかのように、経営の実務を任されるように招かれたのが、戦前の『唐津日日新聞』や『唐津新報』（『唐津時事新聞』改題）に関わった山下芳雄であった。専務取締役となった山下は、政務多忙な宮崎社長の懐刀として敏腕を振るいつつ、営業部を統括して社業を隆盛に導いた。1975年に相談役に退くまで、四半世紀にわたって『唐津新聞』の実質的な経営を担った。

1950年代から1960年代にかけて、『唐津新聞』は紙面も順調に拡大していった。1950年の判型拡大のあと、1953年2月には判型をさらに拡大してブランケット判となった。

頁数はそれまで通常2頁だったが、1960年代に入ると通常4頁が基本となり、廃刊まで続く形態が固まった。1955年当時には公称部数の中でも最も大きい6,500部を記録している。

好調な経営環境に支えられていた『唐津新聞』は、1964年4月に唐津市弓鷹町に社屋を移転。さらに1966年2月には市役所の隣接地である唐津市西城内に移転した。

1960年代は、テレビの普及という新しい局面が様々なメディアに大きな影響を与えた時期でもある。日刊地域紙は、テレビの登場とともに速報性における優位性を失い、大きな打撃を受けることになった。1976年には社屋を唐津市千代田町へと移転。

その後、地域経済の沈下とともに広告収入も後退。経営に深刻な影響を与えた。制作面で新技術を導入するも部数減少にも歯止めがかからず、2008年元日号をもって『唐津新聞』はついに廃刊に追い込まれることになった。

これに先立ち2006年には新たに総合通信事業部が設けられ、「からつポータルサイトびびっと!からつ」の運営が始まった。有限会社唐津新聞社は存続し、『唐津新聞』の発行という本来の新聞事業は完全に辞めてしまい、現在は唐津市松南町で広告チラシの企画・制作などを行なう会社として存続。「びびっと!からつ」上では唐津市内のニュースが「唐津新聞」ニュースとして現在も配信されている。

分野

産業

◎地図・写真・統計資料など



唐津新聞社が発行している
「びびっと!からつ」
(唐津新聞社より)

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html